

津博

TSUHAKE

2023.5 No.116

トピックス

- 出前授業開催
- 『津山松平藩町奉行日記二十九』刊行
- 「郷土の刀剣Ⅱ」開催
- 「江戸一目図屏風実物展示
—蕙斎ワールド2023—」開催

資料紹介

- 考古資料この一点⑦
—岡高塚古墳出土の筒形銅器—
小郷 利幸

お知らせ

- 年間計画



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(鯉形蕙斎 魚貝譜)
一部加工

出前授業を開催しました。

令和5年3月13日に、津山市立向陽小学校3年生（38名）を対象とした校外学習の一環で、出前授業を二宮公民館でおこないました。小学校のある二宮地域の歴史について、今から1500万年前このあたりは暖かい海で、パレオパラドキシアやクジラなどがいたので化石が見つかることや美作地域最大の前方後円墳である美和山1号墳の当時の様子について、木造随身立像など多くの文化財がある高野神社などについて写真などでわかやすく説明しました。最後に江戸時代の出雲街道が近くを通っているの、大名行列について、大名行列図の複製を使用して説明しました。いずれも内容は少し難しかったようですが、大名行列図については興味津々で、色々と質問がありました。



出前授業のようす

『津山松平藩町奉行日記二十九（文化八年）』 を刊行しました。

博物館で所蔵している津山藩の資料から、町を管轄していた町奉行の日記を活字化する作業を続けています。昨年度は文化8年（1811）の町奉行日記を活字化し、刊行しました。文化8年の5月5日と6月25日には大雨のため、城下は洪水しました。また、城下で5人以上子どもがいる家庭を調査し、その家庭の経済状況を上・中・下の三段階に分け、中以下と分類された47人に藩から金銭が支給されています。当館で600円で販売しています。

「郷土の刀剣Ⅱ」を開催 しました。

令和5年2月25日～3月26日まで、「郷土の刀剣Ⅱ」として、昨年に引き続き郷土津山にゆかりのある刀工の作品を展示しました。江戸時代初期から現代にいたる津山ゆかりの刀工が製作した優品に多くのお客様が見入っていました。



展示のようす

「江戸一目図屏風実物展示 - 蕙斎ワールド 2023 -」 を開催しました。

令和5年4月1日～5月7日まで、江戸一目図屏風の実物を展示しました。江戸一目図屏風以外にも、『魚貝譜』など鯉形蕙斎の様々な作品を展示したことで、蕙斎に興味を持ってくださる方が多くいらっしゃいました。

考古資料この一点⑦

— 岡高塚古墳出土の筒形銅器 —

つがたどうき
小郷利幸

はじめに

津山郷土博物館古墳時代の展示コーナーに、筒形銅器と呼ばれる細長い青銅製品が展示されている（写真1）。筒形銅器は、考古学事典（註1）によると槍や矛の柄の下端に取り付ける石突の金具とされ、中に棒状のものが見られるため、振ると音が鳴るようである。

出土例も少なく、珍しいものなのである。今岡山県内の類例を含め紹介したい。なお各部の名称については、図1を参照されたい。



写真1 筒形銅器

資料紹介（図3-1）

本筒形銅器は、岡山県勝田郡勝央町岡に所在する、岡高塚古墳の埋葬施設から出土した。同古墳は丘陵頂部に立地する全長56mの前方後方墳（註2）で、後方部頂に盗掘穴があり、筒形銅器（図3-1）はこの部分にある竪穴式石槨の中からの出土である。ただし経緯については記されているが（註3）、出土場所などを記録した図面類は

ない。本墳は墳形や埋葬施設などから前期後半頃の古墳である。

1は中が空洞の筒状で、上端口縁部から下端底部に向かいやや広がりぎみとなり平らな底部となる。全長18.5cm、口縁部径2.5cm、底部径3.3cmを測る。口縁部上端から5cm程の部分が突帯状となり、その中央に小さな穴が1対あいている。棒状のものを差し込み取り付ける際の目釘穴のようである。現にこの部分の内面には木質が付着する。さらにそれより下の筒部は、長方形の透かしが上下2段4方向に計8個あけられている。透かしは目釘穴の延長上であり、透かしの断面は「ハ」の字状になっている。透かし部分の内面には、長さ6.5cm、径6mmほどの細長い青銅製品と思われる棒状のものが内面に付着する。舌状のもので、本来はこの部分で動いて音が鳴っていたと推測される。

それ他に岩本崇による目釘穴と透かしの位置による分類（註5）があり、これでは目釘穴の延長線上に透かしがあるA群と、目釘穴が透かしの中間に位置するB群、透かしはあるが目釘穴のないC群とに分類される。本例はその内の透かしが目釘穴の延長線上にあるA群に分類される。

筒形銅器の類例について（図3、表1）

岡山県内の類例は、5例あり金蔵山古墳（岡山市、註6）で2個、浅川3号墳（岡山市、註7）、四つ塚1号墳（真庭市、註8）郷原古墳（真庭市、註9）でそれぞれ1個の出土を見る。

金蔵山古墳（図3-2・3）

金蔵山古墳は全長165mの前方後方墳で後円部頂に竪穴式石槨が2基あり、その内の中央石槨（図3-3）とその副室（同2）から筒形銅器が2点出土した。この中央石槨は盗掘をうけていたが鍬形石と鉄製武器が出土し、さらに副室は盗掘されておらず、この中には鑿や錐などの鉄器類がおさめられた土製の容器が4個あり、このうちの1つから鉄斧や鋸などの工具類などと一緒になめられていた。

南石槨からは、変形三神四獣鏡や玉類、

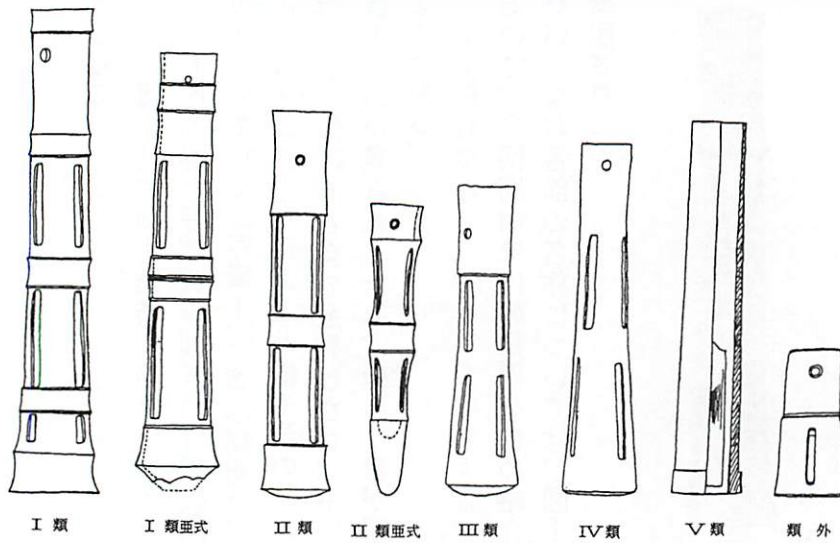


図2 筒形銅器の形式分類（註4より引用）

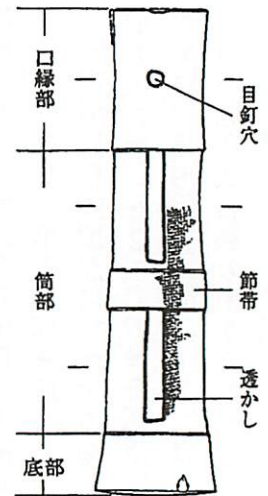


図1 筒形銅器の名称（註5より引用）

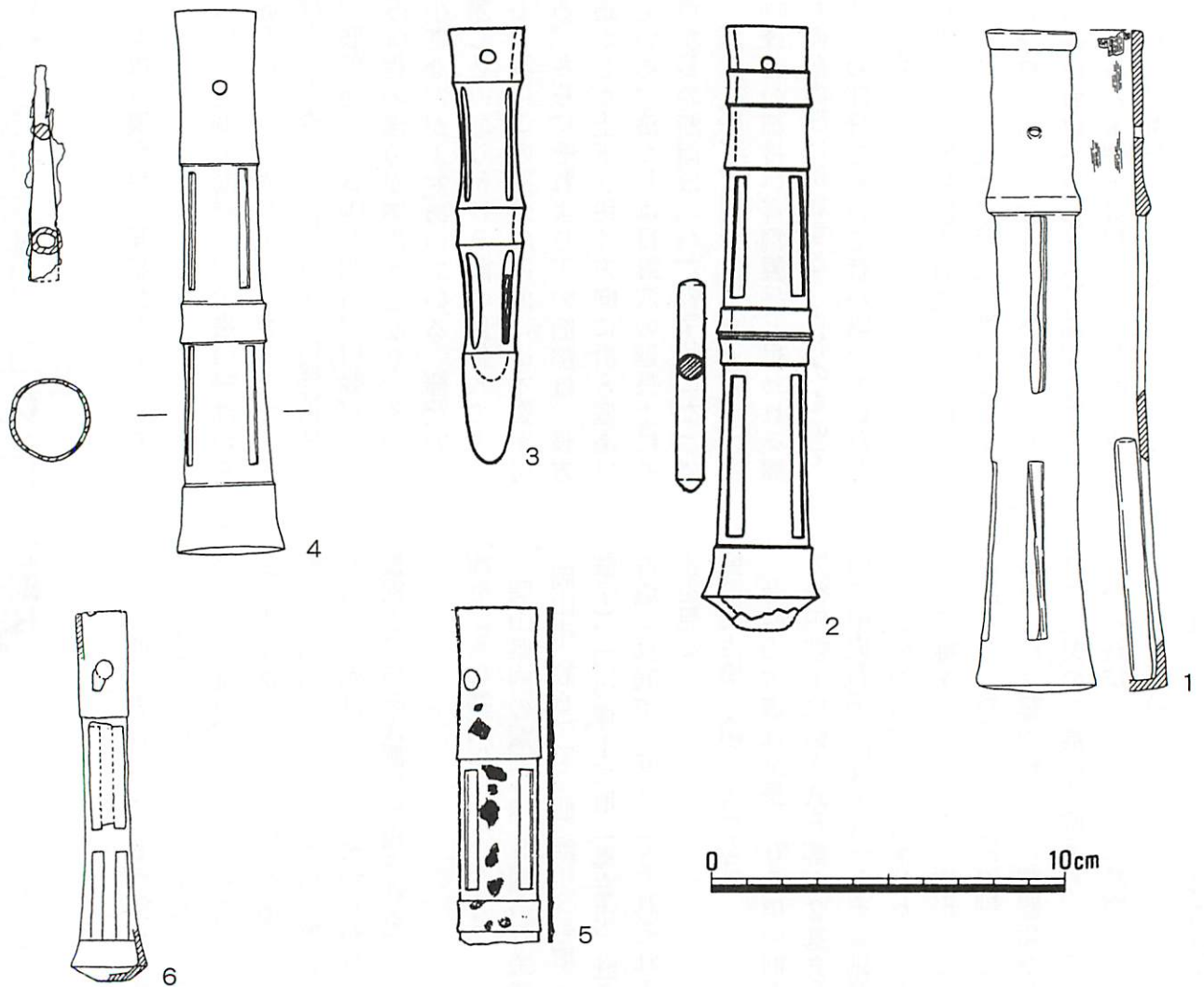


図3 岡山県内の類例（1～5…S=1：2、6は縮尺不明）

鉄器が出土した。

本墳は墳形やこれら副葬品などから前期後半頃の古墳で、その当時は吉備地方最大規模の古墳である。

2は全長17cm、口縁部径2・3cm、底部径3・3cmを測る。口縁の突帯は中央あたりにも突帯があり、その上に目釘穴が一对ある。筒部中央の節帯も溝で二分され、底部にも突帯があり上下二段4方向に透かしがある。内部には長さ6cm、径7mmの青銅製の棒が入れられていた。これは舌と考えられる。

山田分類のⅠ類垂式で口縁部突帯に突帯を重ね、中間節帯が二重になるもので、この型式は2のみである。

また岩本分類のB群で目釘穴が透かしの中間に位置するものである。

3は全長12・3cm、口縁部径2・3cmを測り底部は尖り気味の丸みをもつ。口縁の突帯に目釘穴が一对あり、中央にも節帯があり上下二段4方向に透かしがある。内部に長さ2・5cm、径4mmの青銅製の棒が付着する。

山田分類のⅡ類垂式で、中間有帯式で底部が円錐状になるものである。

また、岩本分類のB群である。

浅川3号墳(同14)

浅川3号墳は、墳形・規模は不明で箱式石棺のみ検出され、そこから鏡(内行花文鏡)や鉄剣とともに出土した。本墳は、これら

出土遺物から前期後半から中期前半頃の古墳である。

4は全長15・3cm、口縁部径2・3cm、底部径3・05cmを測る。口縁部中央には目釘穴が一对あり、下方には中央にも節帯があり、上下2段に長方形の透かしが4方向にある。透かしは目釘穴の延長線上には無いタイプである。内部には長さ6・1cm、最大幅0・9cmの鉄製の小棒が1本入っていた。舌状のものである。

山田分類のⅡ類で中間有帯式である。また、岩本分類のB群である。

四つ塚1号墳(同15)

四つ塚1号墳は、直径27mの円墳で、横穴式石室内から、筒形銅器は須恵器や馬具などとともに出土した。乱掘のため出土場所は不明である。出土遺物の多くは東京国立博物館に収蔵されている。本墳は埋葬施設や出土遺物から、後期後半の古墳である。

5は下半の底部を欠損し、現在長9・4cm、口縁部径2・26cm、厚さ1・1・5mmを測る。口縁部に目釘穴が1対あり、下方には中央に節帯があり、上部に長方形の透かしが4方向にある。透かしは目釘穴の延長線上にある。表面には布の付着が部分的に見られる。

山田分類のⅡ類、岩本分類のA群である。

郷原古墳(同16)

郷原古墳は、古墳の詳細は不明だが、筒形銅器は、東京帝室博物館蔵とされ、図面

のみが知られている。ただ、縮尺が不明のため大きさなどは明瞭でない。

山田分類のⅢ類、岩本分類のB群である。

おわりに

本例を含め県内の6例について紹介した。用途は槍などの柄の金具と考えられ、古墳の埋葬施設に他の副葬品と共に副葬される。

また、本例や金蔵山古墳のように前方後円(方)墳もあれば、浅川3号墳のように小規模な古墳に副葬される場合もある。ただし浅川3号墳は副葬品に鏡や剣を伴う。

さらに、6例のうち山田分類では、Ⅰ類垂式、Ⅱ類垂式各1例、Ⅱ類、Ⅲ類各2例とばらつきがあり、岩本分類では、A群2例、B群4例となる。ちなみに岩本分類では、概ねA↓B↓C群と変遷する。

時期については、ほとんどが前期から中期の初め頃であるが、四つ塚1号墳のみ横穴式石室であるから、後期後半頃の時期であり、さらに岩本分類ではA群で、古いタイプでもあり、時期差がかなりあるように伝世品の可能性もある。

全国的に見て、70例(註10)ほどが知られており、前期から中期にかけての産物のようであるため、四つ塚1号墳の例は時期がかなり異なり、特殊なものとして理解される。さらに類例を整理しても、出土する古墳の規模や埋葬施設などに、あきらかな企画性などは読み取れない。

また、その分布状況から、畿内が製作地とする意見もある(註11)。さらに朝鮮半島南部にも類例が見られ、同地域で製作されたか、同地域を経由して日本列島にもたらされた可能性も指摘されている(註12)。さらに目釘穴と透かしの位置から分類し製作技術から検討した岩本は、古墳時代前期から中期にかけて、王権による配布という形態の流通ではなく、列島内各地の首長の自立性が増大する過程で発達した交流や流通が、筒形銅器副葬の背景のひとつで、当該時期の社会構造を考えるうえで看過することができないと評価する(註13)。

その意味では、本例など県内の類例はそれほど多くはないものの、ほとんどが前期から中期初めとある程度時期が限られ、出土する古墳の規模も地域も異なる。特に本例は、前方後方墳からの出土で、美作地域でも前方後方墳が集中する希有な地域からの出土でありとても興味深い。

このため筒形銅器は当時の社会情勢や社会構造などを再考する良好な資料の一つともいえ、今後のさらなる研究が期待される。

註

- (1) 田中琢・佐原真編2002『日本考古学事典』株式会社三省堂
- (2) 倉林眞砂斗・澤田秀美編2000『美作の首長墳丘測量調査報告』吉備人出版
- (3) 竪穴式石槨の清掃実測をおこなった際に

今井堯、木村増夫両氏が石槨内の棺外から鉄剣とともに発見した。その後、今井氏より本市教育委員会に寄託され、現在は当館の収蔵資料となる。

今井堯1987「美作の前方後方墳四題」『古代吉備第9集』古代吉備研究会

(4) 山田良三1969「筒形銅器考」『古代学研究55号』古代学研究会

山田良三2000「筒形銅器の再考察1999」『檀原考古学研究所紀要考古学論攷第23冊』

(5) 岩本崇2006「筒形銅器の生産と流通」『日本考古学第22号』日本考古学会

(6) 西谷眞治・鎌木義昌1959「金蔵山古墳」『倉敷考古館研究報告第1冊』(1989年復刻)

(7) 建設省岡山国道工事事務所・岡山県教育委員会1998「浅川古墳群ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告123』

(8) 近藤義郎1992「蒜山原四つ塚古墳群(改訂版)」

(9) 森本六爾1929「筒形銅器概観と本古墳発見品」『川柳村將軍塚古墳の研究』岡書院

(同1943「筒形銅器について」『日本考古学研究』桑名文星堂再録)

(10) 註5

(11) 東潮1992「朝鮮渡来の文物」『吉備の考古学的研究(下)』山陽新聞社

(12) 田中晋作1998「筒形銅器について」『網干善教先生古稀記念論文集(上)』

(13) 註5

No	古墳名	墳形(規模:m)	時期	出土場所	図3	山田分類	岩本分類	註
1	岡高塚古墳(勝央町)	前方後方墳(56)	前期	竪穴式石槨	1	Ⅲ	A	2・3
2	金蔵山古墳(岡山市)	前方後円墳(165)	前期	竪穴式石槨(中央)	2	I垂	B	6
				竪穴式石槨(中央)副室	3	Ⅱ垂	B	
3	浅川3号墳(岡山市)	不明	前期~中期	箱式石棺	4	Ⅱ	B	7
4	四つ塚1号墳(真庭市)	円墳(27)	後期	横穴式石室	5	Ⅱ	A	8
5	郷原古墳(真庭市)	不明	不明	不明	6	Ⅲ	B	9

表1 岡山県内筒形銅器出土古墳一覧

令和5年度 津山郷土博物館 行事予定

※新型コロナウイルスの影響で変更する可能性があります。
詳細は決定次第ホームページなどに掲載いたします。

◆特別展・企画展など

- ・企画展示「江戸一目図屏風実物展示－蕙斎ワールド2023－」
会期：4月1日（土）～5月7日（日）
- ・ミニ企画展「彫無季展（仮）」
会期：8月5日（土）～9月18日（月）
- ・ミニ企画展「歴史研究者山本博文先生の仕事（仮）」
会期：9月23日（土）～10月22日（日）
- ・特別展「写真で見る美作津山の歴史（仮）」
会期：10月28日（土）～12月10日（日）

この他にもさまざまな企画展を開催する予定です。

◆出版

- ・特別展図録「写真で見る美作津山の歴史（仮）」の刊行
- ・津山松平藩町奉行日記30の刊行
- ・令和4年度年報の刊行

◆広報活動

博物館だより「津博」

No.116：5月 No.117：8月 No.118：11月 No.119：2月

◆教育普及活動

- ・古文書講座 全9回
- ・歴史講座 全9回
- ・夏休み子供歴史講座
- ・文化財めぐり（友の会） 5月13日、11月、3月



博物館だより「つはく」
No.116 令和5年5月31日



[編集・発行] 津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567
Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tv.t.ne.jp

[印刷] 二葉

入館のご案内

- [開館時間] 午前9:00～午後5:00
[休館日] 毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始（12月29日～1月3日）・その他
- [入館料] 一般…300円
（30人以上の団体の場合240円）
高校・大学生…200円
（30人以上の団体の場合160円）
65歳以上…200円
（30人以上の団体の場合160円）

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です

大は、津山松平藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。

〔表紙・裏表紙の写真資料紹介〕
〔魚貝譜〕 鯽形蕙齋（一部加工）
享和2年（1802）刊
須原屋市兵衛板

見開きページにさまざまな魚介類を写生的に描いている。図は鯨に始まり、鯛、鰈、海老、たこなど。実物をよく見ると、キラキラ光る部分がある。

